

イタリア・ナポリのChaetoceros研究者Dr. Wiebe Kooistraとのメール交換(25.9.~25.10)により有用な考察が得られましたので、以下に記載致しました。

- 1 図鑑に記載している各種の遺伝子データの解析結果により、Type species (タイプ種)ではなく隠蔽種の可能性があるものが複数種含まれる。(*C. debilis*, *brevis*, *diadema*, *lauderi*等々)
- 2 図鑑の *C. costatus* (DNA解析No.: PB-32) は、Kooistraの紅海及び地中海から得られた株EL5C3と一致し、彼らは、この株を *costatus* ではなく、"*Chaetoceros* sp."と標記しているため、本種として確定できないと言っています。
- 3 図鑑の *C. anastomosans* (PB-35) について、ナポリ湾で観察された種は、姉妹刺毛間の橋(連絡刺毛)が長く、遺伝子も異なるため、PB-35株は、系統発生的には、*C. dayaensis*の姉妹群に位置づけられ、--->その後連絡刺毛が短いものは、*C. externus*のグランの図と一致しており、*anastomosans*では無いと言っている。しかしグランの後にクリーブが本種のシノニムとされた。との事で、再度出現時の画像と遺伝子解析を行う予定。
- 4 図鑑の *C. seiracanthus* (PB-33) は、ナポリ産 *C. seiracanthus* の系統とは異なり、別種ではないかと言っています。
本種に関しては、栄養細胞の刺毛の射出方向などから、本種として同定していたため、再度休眠孢子から出芽した細胞からDNA測定を行う予定である。
- 5 図鑑の *C. didymus* var. *anglica* と *C. didymus* var. *protuberans* = 現在は *C. protuberans* について、Kooistraは、形態は異なるが、遺伝子解析結果はほぼ同じため *anglica* も *protuberans* どちらも *C. protuberans* との事である。